

## 令和 7 年度事業計画案

### < 情報提供事業 >

#### ○情報紙「アッタくん」の発行

毎月 1000 枚発行で、236 号から 247 号まで計 12 回発行する予定。毎月の挨拶やお知らせ、活動の様子を撮った写真、イベントの告知に加え、活動中の子どもたちの様子や出来事、町のイベントの情報など、子どもたちや保護者の方はもちろん地域の方々にも楽しんでいただけるような情報紙にしていこう。

現在、情報紙「アッタくん」を配布しているのは、町内の小学校（酒々井小学校、大室台小学校）、ナリタヤ、SEND0、タイヨーなどのスーパーや JR 酒々井駅、まがり屋、公共施設（酒々井町役場、酒々井町中央公民館など）、社会福祉協議会、プリミエール酒々井、駅前交流センター、順天堂大学などである。令和 7 年度は新たにトライアルにも配布する予定である。

子どもたちに新たな発見が『アッタ！！』と感じてもらえるような情報、イベントの告知、また地域の方々にも読んでいただけるような工夫をすることで、酒々井町全体で情報を共有でき、つながりを作るきっかけとなる情報紙にしていきたい。

#### ○SNS の運用（Instagram, LINE 公式アカウント, BAND）

デジタルデバイスの使用が日常生活において欠かせない存在となった現代において、私たちも SNS を活用した情報発信に力を入れていきたいと考えている。SNS を通じて、より多くの人々に B-Net 子どもセンターの活動を知ってもらい、地域社会とのつながりを一層深めていくことが目標である。

現在、ホームページは十分に活用されておらず、運用費に対する効果が見合わない状況である。そのため、令和 7 年度からはホームページの運用を停止し、SNS の運用に重点を置いていくことを検討している。

Instagram では、B-Net の活動の様子を掲載している。また、情報紙「アッタくん」のデジタル版を掲載することで、地域の皆様がいち早く最新の情報を手に入れられるようにすることも目的としている。

LINE 公式アカウントの運用は、保護者の方々とより迅速に連絡を取り合うことを目的としている。これまでイベント申し込みはメールや紙媒体を通じて行っていたが、LINE を導入することにより、重要な情報を一斉に配信し、素早い対応が可能となる。

BAND とは、グループやチーム向けに特化したコミュニケーションアプリである。これまで、スタッフが撮影した写真などは報告書のみで使用され、保護者の方々と共有する機会がなかった。また、以前より「活動中の子どもの様子が見たい」といった声が寄せられていたことを受け、写真や動画の共有が可能なこのアプリを令和 6 年度から導入した。

今年度は、SNS を活用して B-Net の活動の周知を進めるとともに、保護者の方々とより密なコミュニケーションを図り、迅速な情報共有を実現していきたい。

Instagram → [https://www.instagram.com/b\\_net.kodomocenter/](https://www.instagram.com/b_net.kodomocenter/)

## ○B-Net 掲示板

B-Net 子どもセンターのフェンスに設置している B-Net 掲示板を活用し、イベントの告知や募集、子ども食堂のポスター、子ども教室アッタくんの活動状況等の報告などを、保護者の方々をはじめ、地域の方々に随時お知らせしていきたい。

## ○『CANPAN』にて情報を公開

日本財団が提供する公益事業サイト『CANPAN』にて B-Net 子どもセンターの概要などの情報を公開している。公開レベルに合わせて星をつけてもらうことができ、満点が星 5 つのところ、現段階で星 4 つをいただいている。

# <子育て支援事業>

## 自然体験・文化体験・宿泊体験

### I 設定の理由

令和の時代を生きる子どもたちには、予測困難な社会の変化の中で、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断し、行動する力が求められている。令和 2 年改訂の学習指導要領では、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「何を学ぶか」という三つの柱をもとに、「生きる力」のさらなる深化・発展が目指されている。これを受け、令和7年度においても、私たちは子どもたちに多様な体験活動を提供し、学びに向かう力と人間性、そして実際に社会で生きて働く力の育成に寄与することを目指している。

確かな学びを支える活動として、イベントでは自然や季節に関するクイズ、ネイチャーゲームなどを通じて、身の回りの環境への関心や探究心を高める。楽しみながら知識を得る中で、思考力・判断力・表現力といった資質・能力の育成を図る。また、他者との協働やコミュニケーションを通して、多様な価値観を尊重しながら自分の考えを深める力を育む。人間性に関しては、異年齢や地域の大人、大学生スタッフとの関わりを通じて、思いやりや規範意識、社会性の育成を目指す。人とのつながりや社会の一員としての自覚を育て、他者とともによりよい生活や社会を築こうとする意欲につなげる。心身の健康の面では、体を動かす活動や自然体験を通じて、楽しみながら健康な体と生活習慣を育成する。家庭や学校では得がたいリアルな体験を通して、意欲的に取り組む姿勢や自己有用感を高め、主体的な生活の基盤を形成することを目的とする。

### II 企画／提案のコンセプト

自然体験：身近な自然に触れることで、子どもたちの五感を刺激する。また、協力してくださる地域の方々のお話を聞くことを通じて、学びを深めるとともに、礼儀や聞く力を養う。

文化体験：子どもたちの考える力を育成し、自己表現や発表の場を設けることで、主体的に学ぶ姿勢を育む。また、古来から伝わる日本の文化や伝統について学び、教養を深める。

宿泊体験：異学年との交流を通して、相手を思いやる気持ちや協力の大切さを学ぶ。また、自分のことは自分でするという自立心の基礎も養う。

これらの活動を通して、子ども同士や学生、地域の方々とのコミュニケーションを図るとともに、子どもたちが様々なことに気づき、新たな分野に興味・関心を持つきっかけとなるようなイベントを開催する。

### III 提案の目標

日常生活ではなかなか体験できない活動を通して、子どもたちがこれまでとは異なる考えや思いを持ち、新たな分野に興味・関心を広げていくことを目指す。その中で、異学年・異世代とのコミュニケーションを通じて、人への思いやりや協力の大切さを育む。同時に、「聞く力」「自己表現力」「課題解決力」といった力の向上も図る。

### IV 企画／方法

- ① 様々な体験活動を企画し、子どもたちに多様な体験の機会を提供する。
- ② 里山フォーラム、根古谷水と環境保全事業の方々をはじめ地域の方々の協力を得て、体験場所を確保する。
- ③ 地域や順天堂の大学生のボランティアを募集する。
- ④ 情報紙アッタくんや SNS、掲示板などを活用してイベントを広く告知する。
- ⑤ イベント内では、子どもだけでなく大人も楽しめるプログラムを実施する。
- ⑥ 活動後には、スタッフから子どもたちへフィードバックを行う。

- ⑦ 保護者との積極的なコミュニケーションを図り、連携体制を強化する。
- ⑧ 活動報告として、SNS に報告文や活動写真を掲載する。

## V 企画／提案のターゲット

主に小学生を対象とする。(1回 30 名程度)

## VI 企画／提案の展開概要

実施日：年 12 回（予定） 基本的に土日祝日の午前 9 時から午後 12 時半に実施する。  
屋外活動の場合は、予備日を翌日に設定する。

### <体験の流れ>

午前 9 時集合→挨拶→活動スタート→活動のまとめ・挨拶→後片付け  
→感想カード記入→解散(午後 12 時を予定)

### [活動予定]

#### 《子どもゆめ基金助成事業》

日 程	実施内容
4 月 20 日(日)	たけのこ探検隊 (たけのこ掘り)
5 月 10 日(土)	MY 米 IN 酒々井 (田植え)
5 月 24 日(土)	いも博士になろう！植えて育てて大収穫 (苗植え)
6 月 22 日(日)	伝統の味&学びの旅 (料理教室)
7 月 20 日(日)	キッズ・アドベンチャーデイ！ (デイキャンプ)
9 月 13 日(土)	MY 米 IN 酒々井 (稲刈り)
11 月 1 日(土)	いも博士になろう！植えて育てて大収穫 (芋掘り)

上記の 7 のイベントは子どもゆめ基金から助成金をいただくことができる。  
予定では 297,000 円。

#### 《その他イベント》 ※開催検討中

日 程	実施内容
7～8 月頃	学習会
7～8 月頃	肝試しイベント
10 月頃	B-Net 子ども秋祭り 2025
10 月下旬	ハロウィンイベント
12 月中旬	クリスマスイベント
1 月上旬	お正月イベント
2 月下旬	星空合宿
3 月中旬～下旬	スペシャルアッタくん

## VII 展開での収益状況

### ○参加費収入

月	詳 細	1 人あたり	参加人数	実施回数	合計
4.5.6.7.9.11.	参加費	500	30	7	105,000 円

## VIII 開催期日・広告方法

告知は「情報紙アッタくん」「B-Net 掲示板」「ポスター掲示」「SNS」を中心に行う。

参加募集の締め切りは参加者の保険加入のため開催日前の日曜日とする。またイベントの最後に次のイベントの告知を行う。

## IX 展開における期待効果

- ① 様々な活動を通して、好奇心旺盛な子どもたちの興味・関心をさらに高めることができる。
- ② 酒々井の自然に触れたり、歴史について学んだりすることで、自らが暮らす町の魅力に気づくことができる。
- ③ 地域の方々や大学生との交流を通して、コミュニケーション力を高めるとともに、目上の人との話し方や接し方を学ぶ。
- ④ 異なる学年や学校の子どもたちが共に活動することで、新たな人間関係を築くことができる。
- ⑤ 作品作りなどの活動を通して、創造力や自己表現力を養うことができる。
- ⑥ 様々な体験を通して、「生きる力」を育むことができる。
- ⑦ 宿泊体験を通して、身の回りのことを自分で行う力を身に付けるとともに、親元を離れて過ごすことで自立への一歩を踏み出すことができる。
- ⑧ 子どもが子ども同士、大学生、地域の方々と共に活動することにより、他者と協力する姿勢や、相手を思いやる心を育むことができる。

## ○B-Net 子ども教室 アッタくん

### I 設定の理由

近年、子どもたちと関わる中で、新しいことに挑戦することへの躊躇や、失敗を恐れる傾向が見受けられる。そこで本事業では、子どもたちが多様な遊びや体験、人との関わりを通じて、自らの興味や関心の幅を広げ、自分の可能性を肯定的に捉えられるよう支援することを目的とする。失敗も含めた体験を通じて「やってみよう」という意欲を育て、チャレンジする力を培っていききたい。また、地域における子どもの放課後の居場所の減少も喫緊の課題である。安心して過ごせる環境を整え、子どもたちが何度も足を運びたくなるような、温かみのある居場所づくりを目指す。そうした場においては、異年齢の子ども同士が自然に関わり合い、協力や思いやりを学ぶことができると考える。

本活動を通じて、子どもたちが主体的に関わり、仲間とともに成長していくことを支えるとともに、地域の中でここが自分の居場所だと実感できるようなアットホームな空間の形成を目指していく。

### II 企画／提案のコンセプト

子どもたちが安心してのびのびと遊び、新たな友だちを作ることができる空間（居場所）として、地域の方々と学生が連携し、安全面に配慮しながら運営を行う。子どもの自主性や希望を尊重し、異学年の交流を大切にしながら、子どもたちの遊びをサポートしていく。

### III 提案の目標

地域の方々や学生が協力して子どもたちを見守ることで、安心して遊べる環境を提供する。その中で子どもたちが充実した時間を過ごし、より良い成長のきっかけとなるような活動を目指す。

#### Ⅳ 企画／方法

- ① 毎回の活動後に当日の反省会と次回に向けた改善点、イベント内容等について会議を行う。
- ② 地域のイベントに積極的に参加し、地域の方々とのつながりを深めるとともに、子どもたちに多様な体験の機会を提供するため、協力を依頼する。
- ③ 情報紙、口コミ、SNS を活用し、活動を地域に広め、新たな協力者の獲得を目指す。
- ④ SNS や B-Net 掲示板を活用し、活動の様子やイベントの連絡、取り組み内容を保護者や地域の方々に周知する。
- ⑤ 活動後のお迎え時に保護者とのコミュニケーションを積極的に図り、連携を強化する。

#### Ⅴ 企画／提案のターゲット

対象：酒々井町および近隣市町村在住の小学生

子ども教室実施：毎週 1 回（木曜日） 午後 3 時～5 時

実施場所：B-Net 子どもセンター

スタッフ会議の実施：毎週 1 回、木曜日に実施

広報紙の作成：毎月発行予定

その他：子ども教室開催に関する事務作業全般

#### Ⅶ 展開での収益状況

収入：参加費

\*子ども教室に参加する子どもたちから、運営費として 1,200 円を徴収。また、全員にスポーツ安全保険（800 円）に加入していただく。

保険はイベントにも適用され、来年 3 月まで有効である。

#### Ⅷ 開催告知

情報紙アッタくんを中心に、B-Net 掲示板や SNS などを活用して行う。

#### Ⅸ 展開による期待効果

- ① 子どもたちの興味・関心の幅を広げることができる。
- ② 子どもたちの「人を思いやる心」、「助け合い、協力し合う心」の育成につながる。
- ③ 子ども同士やスタッフとの会話を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。また、目上の人との関わり方を学ぶ機会となる。
- ④ 活動を通じて新たな発見があり、物事について主体的に考えるきっかけとなる。
- ⑤ 子どもたちが安心して活動できる場を提供し、地域内における遊びの空間の充実を図る。
- ⑥ B-Net 子どもセンターでの活動を通じて、子どもたちが自ら遊びを創出する力を育む。
- ⑦ 屋外での活動により、子どもたちの体力向上が期待される。
- ⑧ スタッフにとっても、子どもたちとの関わりを通じて貴重な学びと成長の場となる。

### ◆ B-Net 子ども教室 アッタくん年間計画

#### I 日程計画表

	令和 7 年									令和 8 年			計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
平日	3	5	4	3	0	4	5	4	3	4	4	3	42

## ○参加費収入

月 日	詳 細	1人あたり	参加人数	小計	合計
4月から3月	運営費 保険料	1,200 800	25	30,000 20,000	50,000 円

## ○酒々井町放課後子ども教室

### I 設定の理由

平成 19 年度より開始された「放課後子どもプラン」は、地域社会の中で、放課後や週末に子どもたちが安心して健やかに成長できる環境を整えることを目的とし、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」とを一体的または連携して実施する取り組みである。酒々井町においては、平成 20 年度より本事業が B-Net 子どもセンターに委託され、企画・運営を行っている。

今年度も地域の方々のご協力のもと、篠笛、昔遊び、卓球、習字、造形、スクエアダンス、将棋、マジックなど、さまざまな教室を開催する予定である。今後も、子どもたちが安心して活動に参加できるよう、安全面に十分配慮しながら、運営を行っていく。

### II 企画／提案のコンセプト

放課後の時間を活用し、子どもたちの遊び相手や学習のアドバイスを行うほか、さまざまな体験教室を開催する。活動中や下校時の安全に十分配慮しながら、地域と連携して事業を展開していく。

### III 提案の目標

地域の方々と協力しながら、子どもたちが多様な体験や異学年・異年齢の交流を行える環境を整備する。子どもたちにとって充実した放課後となるような活動の実施を目指す。

### IV 企画／方法

毎回の活動後には、学生スタッフや地域の協力者を交えたミーティングを行い、その日の振り返りや反省を共有する。得られた意見や課題をもとに、次回以降の活動の改善に努め、より良い運営を図る。

### V 企画／提案のターゲット

酒々井小学校および大室台小学校に在籍する小学生を対象とする。

### VI 企画／提案の展開概要

① スタッフミーティングの実施：毎回の活動後

② 放課後子ども教室の実施：

【活動日時・場所】

- ・酒々井小学校（主にランチルーム、体育館、多目的ルーム）  
毎週火曜日 放課後～16 時 30 分
- ・大室台小学校（主に大ちゃんルーム、体育館）  
毎週月曜日 放課後～16 時 30 分

## Ⅶ展開での収益状況

なし

## Ⅷ参加の告知

主に「放課後子ども教室だより」にて告知を行う。

## Ⅸ展開による期待効果

- ① 子どもたちの放課後の時間を活用した、様々な関わりや体験の創出。
- ② 地域の方々の協力・参加を通じた、世代を超えた交流の促進。
- ③ 地域との連携により、子どもたちを見守る体制の強化。
- ④ 子どもたちが自ら興味のある活動に取り組むことによる、自主性の育成。
- ⑤ 昔遊び、造形教室、スポーツなどを通じた新たな学びや発見。
- ⑥ 体を動かす活動を通じた体力向上。
- ⑦ 安心して過ごせる活動環境の整備。

## X放課後こども教室年間計画

### I 日程計画表

	令和7年									令和8年			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
開催数	3	6	9	5	0	6	7	6	4	5	6	4	61

### II 特別教室一覧

小学校	内 容
酒々井小学校	造形教室、習字教室、篠笛・昔遊び教室、スクエアダンス教室、将棋教室、マジック教室
大室台小学校	卓球教室、習字教室、篠笛・昔遊び教室、スクエアダンス教室、将棋教室、マジック教室



## <町づくり等事業>

### ○子ども食堂

#### I 設定の理由

子ども食堂は2012年に始まり、その後全国的に広がっている。その背景には、2009年に政府が初めて相対的貧困率を公表したことや、子どもの貧困層の増加といった社会的な要因がある。

子ども食堂を開くことで、子どもたちが安心して温かいご飯を食べられる場所を提供したいと考えている。また、地域の高齢者、大人の方々にも積極的に参加していただき、幅広い世代が交流できる地域のつながりの場としての役割も担いたい。

#### II 企画／提案のコンセプト

一人で夕食をとっている子どもたちに対し、地域の人々や他の子どもたちと一緒に、温かくておいしいご飯を囲むことができる居場所を提供する。

#### III 提案の目標

地域の人々と協力しながら、子どもたちが安心して夕食をとることができる場を目指す。また、共に食卓を囲むことで子どもたちとのコミュニケーションを深め、お腹だけでなく心も満たすような時間をつくることを目標とする。

#### IV 企画／方法

- ・月に2回、地域の方の協力を得て、B-Net 子どもセンターにて子どもたちに夕食を提供する。
- ・配膳や片付けは子どもたち自身が行う。
- ・情報紙、口コミ、SNSを中心に活動の周知を図り、新たな協力者の募集にも積極的に取り組む。

#### V 企画／提案のターゲット

酒々井町に住むすべての住民を対象とする。子どもから高齢者まで、誰もが気軽に立ち寄れる地域交流の場として広げていきたい。

#### VI 企画／提案の展開概要

実施日：毎月第1・3金曜日 17時から19時

場 所：NP0 B-Net 子どもセンター

#### VII 展開での収益状況

子どもは無料。大人は200円に設定する。

#### VIII 参加の告知

情報紙アッタくん、SNS、掲示板に掲載。子ども食堂の看板の設置、ポスターの掲示も行う。

#### IX 展開による期待効果

- ① 子どもの食事の困難や孤食の問題に対し、皆で食べることの喜びや楽しさを実感してもらう。
- ② バランスのとれた食事を提供することで、子どもたちの健全な成長を支える。
- ③ 地域の方々と連携し、地域全体で子育てに取り組むことで、地域の活性化にもつなげる。
- ④ 配膳や片付けを子どもたち自身が行うことで、生活力や自立心を育む。
- ⑤ 地域の人々や異なる学年・学校の子どもたちが集まることで、新たな人間関係を築き、地域交流の場となる。

## ○《秋祭り》

### B-Net 子ども秋祭り 2025

#### I 設定の理由

ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域全体を巻き込んだ大規模イベントの開催が困難な状況が続いていたが、令和 6 年度には B-Net 子どもセンターとして 5 年ぶりに夏祭りを実施することができた。子どもたちが主体的に屋台や出し物を企画・運営し、地域住民と交流するこの取り組みは、子どもたちにとって貴重な体験の場となり、また地域にとっても久しぶりの賑わいをもたらす意義深い機会となった。

この成果を受け、令和 7 年度は「秋祭り」として継続開催する。開催時期を秋に変更した背景には、夏季に比べてスタッフの確保がしやすいこと、また、暑さによる熱中症リスクを軽減できることが挙げられる。これらの要因を踏まえ、より安全かつ円滑な運営を図るため、10 月上旬での実施を計画している。

本企画では、昨年度同様、子どもたちが運営の中心となり、屋台や出し物の準備・運営を行うことで、異学年交流を深めるとともに、協調性や達成感を味わう場とする。また、家庭や学校とは異なる環境で、多様な人々と関わりながら活動を進めることにより、子どもたちにとって実社会を意識した貴重な学びの機会となる。さらに、子どもたちが自ら裁量を持ち、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育むことで、生涯忘れられないような秋の思い出となることを目指す。地域住民同士の新たなつながりを生み出すことで、地域全体の温かさや一体感の構築にもつなげていきたい。

#### II 企画／運営のコンセプト

準備から開催までを子どもたちが一貫して担うことで、協力して取り組むことの大切さや達成感を体験する機会とする。また、地域の方が一堂に会する場を提供することで、将来的には酒々井町の季節の風物詩となるような恒例行事としての定着を目指す。

#### III 提案の目標

- ・集団の中で自分の意見を主張し、他者の意見を尊重する態度を育む。
- ・自らルールや時間を設定・遵守することで、社会性を身につける。
- ・多様な背景を持つ人々との交流を通じて、豊かな人間関係を築く。
- ・B-Net 子どもセンターならではの体験を提供し、子どもたちの成長を促す。

#### IV 企画／提案のターゲット

運営：小学 1～6 年生の児童 20 名程度を対象とする。

参加者：酒々井町を中心とした地域住民全体。

#### V 企画／提案の展開概要

- ① 実施日：令和 7 年 10 月上旬
- ② 開催場所：中央台公園
- ③ 参加の募集方法：情報紙アッタくんでの告知、公民館・スーパー等へのポスター掲示、子ども教室アッタくん等での周知活動を行う。
- ④ 今後の日程計画：(1)情報紙アッタくん 7 月号にて子どもスタッフの募集を開始。  
(2) 活動内容・タイムスケジュール等を企画立案。  
(3) 班編成や役割分担を決定し、準備を進める。  
(4) 子ども会議を開催し、当日の内容を具体化・確認する。

## ○地域交流

### I 提案の理由

地域の活動に参加することで、地域の人々との交流を深めたいと考える。新たなつながりが生まれ、情報交換や協力を通じて、地域の活性化につながることを期待される。また、日頃から B-Net の活動を応援・協力してくださっている方々への感謝の気持ちを込め、地域の活動に積極的に参加する。

### II 企画/提案のコンセプト

B-Net の活動の柱である「町民いきいき、商店街いきいき、子どもいきいき」に基づき、イベントを通じて地域住民との交流を深め、地域の活性化に貢献することを目指す。また、他団体とのつながりを築くことで、子どもたちに新たな体験やイベントを提供できるようにする。

### III 企画/提案の目標

他団体の活動を知り、相互に協力することで、広く強固な地域ネットワークの構築を図る。学生スタッフは地域の活動に参加し、そこで得た経験を B-Net や子どもたちに還元することで、B-Net の活動の充実を図る。また、地域の方々に B-Net の取り組みを広く知ってもらうことを目指す。

### IV 企画/提案の展開概要

B-Net 子どもセンターの活動を紹介するとともに、他団体の活動にも参加・協力し合うことで、地域や他団体とのつながりを一層強化する。

### V 展開による期待効果

- ① 地域住民との交流が深まり、より地域に根差した活動が可能となる。
- ② 他団体との連携により、子どもたちに新たなイベントや体験を提供できる。
- ③ 相互協力によって、より活発かつ継続的な活動の実施が可能となる。
- ④ 地域の方々に B-Net の活動を知ってもらい、B-Net 自体の活性化にもつながる。

#### <令和7年度の計画>

- 酒々井町スポーツ・レクリエーション祭
- 新酒祭
- 酒々井ふるさと祭り
- 酒々井・千葉氏祭り
- 里山フォーラムの活動に協力
- 根古谷水と環境保全事業に協力